

○経営構造対策事業の取組事例

【野菜の生産施設の整備による担い手の育成】

地 区 名：和歌山県印南南部地区（H15 年度）
事業主体：JA みなべいなみ、稲原西施設組合等
実施年度：H16～17 年度
事業内容：農産物生産施設（低コスト耐候性ハウス）、
開花貯蔵施設
事業費等：438,521.4 千円（国庫 217,583 千円）

（1）事業取組前の状況

- ① 当地区は、和歌山県西部海岸のほぼ中央部に位置し、温暖な気候を活かした野菜や花卉類の栽培が盛んな地域である。
- ② 消費者ニーズにあった取組や他産業並の就業条件の整備による担い手育成が急務となっており、特産であるウスイエンドウやミニトマト、花卉類について、高品質化や台風等の気象災害に影響されやすいこと、加えて生産コストの低減が農業経営上の課題となっていた。

（2）取組概要

- ① 多様化する消費者ニーズに対応し、高品質な商品を提供するため、台風に影響されない「低コスト耐候性ハウス（ミニトマト、ウスイエンドウ）」の導入により、安定生産、農家所得の向上が図られている。
- ② カスミソウの採花から出荷までの品質管理作業を共同で行うことで、開花状態の統一と日持ち性の向上が図られ、生産者のコスト低減に繋がっている。

（3）事業推進上のポイント

- ① 台風等の気象災害に左右されないため安定経営を実現
- ② 高糖度ミニトマトとして、市場評価（単価）がアップ
- ③ 被覆資材の張り替えが5年に一度となり施設維持コストを削減するなど、生産者のコスト低減を実現

○整備施設等



低コスト耐候性ハウス



高糖度ミニトマト（赤糖房）

・ウスイ（9棟、7,400 m²）、・ミニトマト（23棟、20,136 m²）